

第14回これからの北海道立近代美術館検討会議 議事録

日時 令和7年(2025年)1月21日(火) 11時00分~12時00分

場所 Web会議システムZoom

出席者 別添「出席者名簿」のとおり

- 議題 1 北海道立近代美術館リニューアル基本構想(素案)に係るパブリック・コメントの結果概要について
2 北海道立近代美術館リニューアル基本構想(案)に向けた素案の修正について
3 意見交換

議事

- (1) 議題1 北海道立近代美術館リニューアル基本構想(素案)に係るパブリック・コメントの結果概要について
ア 事務局から資料1に基づき説明

イ 質疑応答等(有・)

- (2) 議題2 北海道立近代美術館リニューアル基本構想(案)に向けた素案の修正について
ア 事務局から資料2に基づき説明

イ 質疑応答等(・無)

(佐藤委員)

細かなことになるが、資料2のパブリック・コメントについて、展示数が狭くてスペースの確保が困難という意見に対して、方向性として、リニューアルした他県の美術館の平均を超える面積を確保できる見込みであると追記すると書いてあるが、具体的に言うと、どの程度の面積のことを言っているのか。

以前に少し調べたところ、過去十年の他県でリニューアルをした美術館の展示室の面積が違ってきている。例えば、昔3,948㎡が平均であるという資料があり、別の資料では、3,123㎡という記載もあった。今回の資料は2,862㎡になっている。資料2に記載している平均というのは、2,862㎡のことか。2,862㎡が平均であるということであれば、それを超える約3,000㎡程度を見込んでいくということによろしいか。

そのあたりを教えていただきたい。

(事務局)

時点によって面積が変わっているところはある。基本構想素案に記載されている平均2,862㎡については、中間報告で整理をした令和4年度に調査した結果となっており、これを基準に考えているところ。

(佐藤委員)

それを超えるということは、3,000㎡程度を目指すというイメージによろしいか。まだわからないかもしれないが、本当に展示室が狭いので、3,000㎡以上を目指していただければいいと思う。基本計画の中で精査される事だろうとは思いますが、気になった点であった。

- (3) 議題3 意見交換

(佐藤委員)

概要版の内容については、パブリック・コメントや委員の意見の反映が足りていないと思われる。

特に概要版2ページ目のリニューアルの方向性の項目、ハーモニーの中で「スタッフの専門性の向上や育成」とあるが、先ほど追記すると整理されていたエドゥケーターやコンサーバー等の専門性について触れた方がいいのか。また、「博物館実習の実施による後進育成の充実」とあえて頭出しで出ているが、もちろん育成には関係あるものの、どこでもやっていて新しいことではないので、これよりもエドゥケーターやコンサーバー等の専門的なことを目指すといったことに触れた方がいいのか。

コレクションの項目については、「系統的な収集と適切な保存」とあるが、先ほど追記すると整理されていた継続的な収集について盛り込むといい。リサーチのところでは、アーカイブのことについてももう少し触れた方がいい

のではないか。

基本構想の全体的な話では、大変素晴らしいと思うが、ハーモニーの項目の中に、コンセプトの実現のための手法や機能例として、「魅力にあふれた多彩な展覧会の開催」とあるが、概要版には出てこない。

以前、美術館のリニューアルはワクワク感に満ちたものになるという話があったが、様々な環境や事業があり、それらがワクワク感をもたらすことになる。近代美術館が強みとして持っているのは、北海道の中で大きな規模の展覧会が実現できるということ。それこそがワクワク感をもたらすものではないかと考えているため、こういった展覧会の項目は書いた方がいいのではないか。

知事公館側との一体化の話もあったが、基本計画の中で様々に議論されていけばいい。杞憂なことながら、北海道の総務部と教育庁の擦り合わせが難しかったり、運営する場合のネックがあったりすると心配なので、そのあたりは連携を取りながら進めていただきたい。

(事務局)

概要版のリニューアルの方向性については、字数の制限等はあるが、なるべく反映する方向で検討する。

魅力にあふれた多彩な展覧会の開催の記載については、目指す姿の中にあるビジョン・ミッション・コンセプトにぶら下がる手法や機能例の一部となるため、概要版に含めるには、スペースに制限があり難しいかと思うが、検討させていただく。

(佐々木亨委員)

資料1のパブリック・コメントについて、これは進めて行くための手段として必要だと言うことはわかるが、特に子どもからの意見は非常に少なく、内容もこういうことをやりたい、こんな作品が見たい等の「want」のレベル。意見を反映する上で大事なのは、子どもの意見の背景にどんなニーズがあるか、そこを捉えて反映することが大事。パブリック・コメントの意見の反映の仕方は注意した方がいい。いただいた意見のとおりにするというのではなく、意見の背景に何があるか、ニーズが何かということを考えて上での反映がいい。

資料2の委員意見の6番目にあるウィズ・キッズについて、北海道の中核的美術館という文言を入れているが、北海道博物館も道内の中核的博物館として、という言葉掲げている。便利な言葉だが、行政組織上の中核美術館という意味であれば全く意味がない。北海道にある美術館の中核として、どういう機能・役割を果たすのか、関係性をどう作るのか。行政組織上だけでなく、本来あるべき近美の機能や関係性をちゃんと考えていることが大事。言葉としては、すごく大事な言葉だと思う。

これからリニューアルするに当たっての手段として、基本構想などを検討し、書類を作る事は大事な作業だが、目的達成の手段であった基本構想の作成が目的になってしまい、どんな美術館にしたい、こうあってほしいといった願いの部分が、隠れてしまうことがある。近美や道教委の事務の方々には、あくまでやりたいことを実現するための、目的に向かうための手段であるということをお忘れなく欲しい。作った構想に引きずられ、自分達の願いやそういうものが薄れてくるといった経験が私もあったので、その辺りのバランスを上手く取りながら進めてもらったらよりいいものになるのではないかと思います。

(北村委員)

パブリック・コメントで色々な意見があり、例えば建物を取り壊すのではなくてよかったと言うのと、改築と決まって残念、お互いに相矛盾する意見なので、全部を平等に取り入れるということは元々難しいのだと思うが、私と同じような意見を持つ方がいると思い、共感を覚えたところ。

先ほどスペースの問題について、佐藤委員からも話があったが、現状のスペースよりもはるかに超えることが、増築によって可能になるということだったので、是非その点は考えて欲しいと思う。

今後の進め方で、アピールが足りないのではないのかという意見があり、この点は基本構想の本文の中に入れることは難しいと思うが、近美が新築された時には、道民の運動の様なものがあり、ぜひ新しい美術館が欲しいという様な熱意があったと思う。そういう熱意がまだ道民の中で少ない気がする。前にも触れたが、期成会の様なものを近美や道教委が主導できるものではないが、新しくリニューアルされる美術館ができる、というワクワクした気持ちを道民の中に起こす、そういう方策を基本構想とは別に考えていただきたい。

(事務局)

機運醸成の部分は、行政で難しい部分はあるが、美術館に対する検討段階、その後の段階において、道民に向けた機運醸成を図って行くようなことはやっていきたい。委員の皆様には、その点の御協力についてもお願いをしていきたい。

第14回これからの北海道立近代美術館検討会議 出席者名簿

○ 構成員
(敬称略、五十音順)

所 属	職	氏 名	備 考
株式会社h a k u	代表取締役	菊地 辰徳	
北海道大学	名誉教授	北村 清彦	
北海道教育大学釧路校	教 授	佐々木 宰	
北海道大学大学院文学研究院	教 授	佐々木 亨	
前札幌芸術の森美術館	館 長	佐藤 友哉	

○ 事務局

所 属	職	氏 名	備 考
北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課	課 長	菅野 泰之	
	道立近代美術館担当課長	佐藤 昌彦	座長
	係 長	佐伯 圭介	
	主 任	宮下 直之	
	主 任	中林 恭良	
北海道立近代美術館	副 館 長	松田 俊也	
	学芸副館長	中村 聖司	
	総務企画部長	熊澤 栄司	
	学芸部長兼学芸統括官	村山 史歩	
	総務企画課長	富田 拓貴	